

「ウィリアム・ティンダル 司祭 一五三六」

司祭 三ハネ 井田泉

アメリカ聖公会の祈禱書(一九七九)を開くと、教会暦の一〇月の頁に「六 William Tyndale, Priest (ウィリアム・ティンダル、司祭)、一五三六」と記された一行が目につきます。一〇月六日は、英語聖書翻訳者ウィリアム・ティンダルの殉教の日です。

一六世紀初めのヨーロッパはどこもそうだったと思いますが、イングランドにおいても礼拝はラテン語で行なわれ、一般の人々は意味を理解することができません。聖書が朗読されても、何が言われているのかわかりませんでした。人々の魂は潤されていませんでした。神の言葉を聞くことができないうことは、神を知る、神を経験する道もほとんど塞がれたままだったということです。しかし人々の心の奥には、神を、神の救いと導きを求める渴望があったのです。

ひとりの若い司祭が、神によつ

て心を燃やされて、一般の人々に神の言葉を届けたいと決意しました。ウィリアム・ティンダルです。彼は原典から聖書を英語に翻訳し、人々が直接神の言葉に触れるようにしなければならぬと信じたのです。

しかし当時、聖書を勝手に翻訳することは禁じられていました。人々が聖書を自分で読んで自分で解釈することによって、教会と国家の権威に逆らい秩序を乱すことを恐れたのです。

迫害の危険を感じた彼は、大陸に渡り、協力者を得て聖書の翻訳と出版の事業を進めました。彼は正確な翻訳を目指すとともに、普通の人々にわかりやすい翻訳を目指しました。たとえば、綴りの長い単語ではなく、できるだけ短い言葉を用いて訳す。複雑な言い方はなく、単純な表現を工夫する。聖書本文を目で追い、あるいは朗読することによってそのまま理解で

きるようにする。これは大変な努力です。

ティンダルの英訳聖書は船の荷物の中に隠され、海を渡ってイギリスに持ち込まれ、非常な勢いで売れました。人々はそれを待っていたのです。

しかし弾圧、迫害の手が及びます。彼の英訳聖書は見つかり次第没収され、そして彼自身は異端宣告を受け、司祭職を剥奪されました。一年以上の獄中生活の後、処刑されることになりました。

一五三六年一〇月彼が公衆の面前で、身体を柱に縛り付けられて、首を絞められて火に焼かれようとするその瞬間、彼は叫びました。

「主よ、イングランドの王の目を開いてください」

その後状況は急速に変化しました。ヘンリー八世は、まもなく英語の聖書(ティンダル訳そのもの)はありませんでした(が)を各教会に備えつけるように命じました。

曲折を経てローマ・カトリックから分離した英国教会が誕生し、やがて世界に広がることになりました。ティンダル自身は新しい教会

を作ろうという考えはなかったとしても、彼の精神と彼の訳した聖書は、聖公会の大切な源流のひとつとなったのです。

アメリカ聖公会のホームページには、一〇月六日の彼の殉教を記念して、次のような祈りが掲載されています。

全能の神よ、あなたはあなたの僕ウィリアム・ティンダルの心に、聖書を人々に彼らの言葉でもたらしたいとの燃え尽くすような情熱をお与えになり、彼に力強く恵み深い表現の賜物と、あらゆる妨げに対して事をやり通す強さをお与えになりました。どうかあなたの救いのみ言葉をわたしたちにも示してください。わたしたちが聖書を読みまた学ぶとき、み言葉がわたしたちを悔い改めと命へと招いていてくださることを教えてください。父と聖霊とともに永遠に生きて統治されるひとりの神、わたしたちの主イエス・キリストによってお願いいたします。**アーメン**